

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500593
法人名	有限会社 おきた建築
事業所名	グループホーム おきた
所在地	伊予郡砥部町原町370-1
自己評価作成日	平成21年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年9月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

代表の地元で、職員も町内の方が多く、開設当初より地域に密着しています。民家を改造した造りのホームで、とても家庭的な雰囲気があります。食事も、家庭料理を心掛け、ホームの畑で採れた野菜や、地物の食材を使い毎食手作りで、利用者さんにはとても喜ばれています。医療面においても、日々の健康管理や観察を丁寧に行い、町内にある協力医療機関とも密に連携が取れています。また、職員の離職も少なく、利用者さんと馴染みの関係が築けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

日々の買い物時に、知り合いの方に出会ったり、近所の知人宅にも遊びに行かれている。毎年、お正月には、近所の三島神社に初詣に行かれたり、お孫さんが仕事されている図書館に本を借りに行かれることもある。又、訪問してくれた小学生の中に、ひ孫さんや、自宅の近所の子もさんがいることもある。畑の野菜を利用者と一緒に世話して、収穫を楽しみ、新鮮な食材が食卓にのぼり、話題になっていた。食材の買い物も、利用者と一緒に行かれ、下ごしらえは、できる利用者が手伝っておられる。調査訪問時、松茸ごはんを食べながら、利用者が「朝、吐く息が白くなると松茸が採れるんよ」「松茸は、下から上へと探すんよ」と生き生きとした表情で話して下さった。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. <b>数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム おきた

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

沖田 るみ子

評価完了日

平成 21 年 9 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域に密着し、家族とともに利用者様を支え合う事をふまえた理念を掲げている。代表や管理者は、ミーティングや、日々の支援の中で理念を共有し、実践できるよう常に話している。	
			(外部評価) 事業所は、「住み慣れた地域・家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしていけるように」という理念を掲げておられる。管理者は、日頃から職員に家庭的ということをお伝えし、利用者への言葉かけ等が気になる場合は、理念に立ち返り指導されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 代表や管理者の地元であり、元々地域とのつながりが強い。職員も近所や、町内の方がほとんどである。散歩に出た折には、御近所の方と挨拶をかわしたり、話をしたりもする。また麻生小学校との交流会や、地域のお祭りにも参加し、地域とのつながりを大切にしている。	
			(外部評価) 管理者が地元の方であり、職員も利用者も地元の方が多いこともあり、散歩や買い物等、日常の中で地域と自然なかかわりを持っておられる。お隣の集会所で運営推進会議を開催されていたり、地区の文化祭や地方祭には利用者、職員全員で出かけ、今年から、事業所駐車場に神輿が来てくれるようになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域や、御近所の方の相談を受けたり、地域包括支援センター等へ繋げるなど、地域の方に支援を行う事もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議では、様々なテーマで、事業所の取り組みを報告している。少しずつではあるが、地域の方から、アドバイスをいただいている。しかしご家族からの要望は、遠慮の為かほとんどない。また、ご家族の参加者が決まった方になりがちである。</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議では、毎回テーマを考えて取り組まれている。会議時にそつめん流しをされた際には、利用者も参加された。ご家族の都合もあり、限られた方が出席することとなっているため、他のご家族にも会議時の内容を後日、報告されている。出席者の方から外出先のアイデア等をいただき、出かけられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議には必ず出席していただいております。何でも相談できる関係にある。</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議で、市の担当者に介護保険法改正についての説明をしていただいたり、利用者の生活保護受給者の手続き等についても教えていただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      見守りを徹底し、身体拘束のないケアは実践できている。しかし玄関の施錠に関しては、職員の配置、利用者様の状況により、やむおえず施錠する場合がある。</p> <p>(外部評価)                      職員には「身体拘束排除のマニュアル」を配布されており、今後、内部研修を予定されている。利用者が一人で出かけようとされる等、落ち着かないような場合には、一時的に職員を増員して対応したいと考えておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員個々が、気持ちに余裕を持って利用者様と関わり、常に言動に気をつけるよう代表や管理者は話している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 代表や管理者は、利権擁護や成年後見制度について理解しており、相談があれば適切にアドバイスを行うことができる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも、連絡して下さいと伝えている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には、意見や要望は、遠慮なく伝えてほしいと常に話している。また職員は、来訪された方と話す場面を持つよう心掛け、意見や不満や要望をくみ取るようにしている。 (外部評価) ご家族には「砥辺おきた通信」や行事時の案内、お手紙の送付やメール等で、日頃の様子を伝えておられる。又、ご家族来訪時には、お話を聞くようにされている。	現在、ご家族からご意見をいただくようなことは少なめである。今後もさらに、ご家族が直接は言いにくいようなご意見や、事業所に対する要望等を引き出し、さらなる事業所のサービスの質の向上につなげていかれてほしい。意見や要望をご家族が出しやすいよう、機会作りや雰囲気作りの工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングや、勤務中に話す事は多々あり、職員の意見や提案を聞いて、出来る事は反映させている。	
			(外部評価)	
			管理者は、職員の意見を、毎月のミーティング時や日々の勤務の中で聞くようにされている。職員からレクリエーションに「ことわざカルタ」はどうかという提案があり、大きさ等を検討されていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員にとって働きやすい環境や、条件となるような事は努力している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修の案内を必ず周知し、希望者は参加できる態勢にある。また、今年から奇数月に所内研修を開始した。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			代表や管理者は、同業者と交流する機会があるが、現在職員同士の交流はない。しかし職員個々が、研修等で知り合った方と、情報交換することはある。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人が納得して入居できるよう、出来る限り努力している。入所前に面談をしたり、入居後多くかかわりを持ち、不安や要望を汲み取るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安や困っている事、要望等は気軽に尋ねてほしいと常に伝えている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様がスムーズに入居できるよう、デイサービスのように通ったり、お試しでの入居も受け入れている。また、入居前には職員が訪問し、馴染みながら入居できるような支援も行っている。常に柔軟に対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 女性の利用者様には家事などを一緒にしていただいたり、子育ての相談、経験談を聞くこともある。男性の利用者様には男性ならではの役割(力仕事)を一緒にしてもらおう等し、共に生活しながら支え合うという事を大切にしている。また利用者様から職員へ、労いの言葉をいただいたりし心通わせ、いろいろ学ぶ事も多い。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様を共に支える為に、状態を報告したり、家族様をお願いしたい事を頼む等、支え合う関係が築けるよう努力している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様にも、馴染みの方にホームへ面会していただくようお願いしたり、知人宅へ利用者様をお連れする事もある。出来る限り馴染みの関係が継続できるよう支援している。 (外部評価) 日々の買い物時に、知り合いの方に出会ったり、近所の知人宅にも遊びに行かれている。毎年、お正月には、近所の三島神社に初詣に行かれたり、お孫さんが仕事されている図書館に本を借りに行かれることもある。又、訪問してくれた小学生の中に、ひ孫さんや、自宅の近所の子どもさんがいることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員も一緒に歌を歌ったり、会話を楽しんだりし、楽しい時間を過ごすようにしている。また、日々変化する利用者個々の気分や、感情を注意深く観察し、利用者同士のトラブルやダメージが起きないように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、今後も相談に乗れる事を告げている。他のサービスへ移行する際には、詳しい介護サマリーを作成し、しっかり申し送っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを多くとるよう心掛け、日々のかかわりの中で、利用者様の思いや意向をくみ取るよう努力している。また、家族様からも情報を得よう努めている。 (外部評価) 事業所オリジナルでアセスメント様式を工夫をされており、ミーティングでの情報も加え、年1回、更新されている。利用者が思いを言葉に表すことが段々むつかしくなっており、職員は、「ちょっとした言葉や行動から把握していきたい」と話しておられた。	利用者一人ひとりの思いや意向をさらに探っていくためにも、アセスメントの充実をすすめていかれてはどうか。個々の情報を蓄積して、職員で共有していけるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者様、家族様よりアセスメントシートをもとに聞き取りを行い、今までの生活歴を把握するよう努めている。また、担当ケアマネジャーや、関係機関からも情報を得るようにしている。入居後も日々の関わり中から、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ミーティング時に利用者様ごとに話合いを持ち、現状を全職員が把握するよう努めている。また受け持ち担当を決め、利用者様ごとに密な関係を築くよう努め、担当職員が責任をもって支援するようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ミーティングの内容や、日々の関わりをふまえて、担当職員と計画作成担当者が話し合いを持ち、介護計画を作成している。評価、立案したプランを報告し意見をいただくようにしている。	
			(外部評価)	
			事業所オリジナルで介護計画書の様式を工夫されており、モニタリング欄も設けておられる。計画書をご家族に送付して支援内容を確認してもらっている。	ご本人の状態変化時等、ご家族と支援内容について相談されたり、ご本人の希望やご家族の要望・ご意見が反映された介護計画の作成に取り組んでいかれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			利用者様の言葉を大切に、記録するようアドバイスしているが、実施したことや、あった事の記録内容になりがちである。今後は、ケアプランのケア内容に即した内容となるよう記録を工夫していきたい。バイタルサインや、排泄の状態、食事量、飲水量等に関しては日々状況をきっちり把握し記録している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			通院介助や、入退院のお迎え、個別外出の支援、家族への食事の提供等、様々なケースや状況に対し、常に柔軟な対応がとれている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ボランティアや、民生委員、地域包括支援センター等と協働したり、町内のイベントにも参加し、より良い暮らしが営めるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>協力医療機関のみならず、希望される医療機関を受診 できるよう常に支援している。協力医院からは、月1回 の往診があり、密な連携がとれている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>協力医療機関からは月に1回往診があり、緊急時にも協 力していただけるようになっている。ご家族が通院介 助をされる際には、事業所でのご本人の状態をお話し て、医療機関に伝えてもらっている。又、職員が通院 に同行された場合は、結果をご家族に報告されてい る。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	(自己評価)	
			<p>ホームには看護師がおり健康管理や、急病時に適切な 対応がとれている。また、協力医療機関の訪問看護師 や外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気 軽に相談できる関係であり大変心強い。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ホームには看護師がおり健康管理や、急病時に適切な 対応がとれている。また、協力医療機関の訪問看護師 や外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気 軽に相談できる関係であり大変心強い。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取 り合い、早期に退院できるよう働きかけ、入院による ダメージを最小限にできようしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取 り合い、早期に退院できるよう働きかけ、入院による ダメージを最小限にできようしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>重度化や看取りに関して指針を定めている。看取りに 関する研修にも参加し、運営推進会議でも報告した。 利用者様ごとに状況を見ながら、ホームがどのような 支援を行えるのか、その都度検討しながら実施してい きたい。</p>	
			(外部評価)	
			<p>事業所の看取りの指針を示し、運営推進会議時、他事 業所が開催した「看取りの研修」時に勉強したことを 報告された。看取りが必要になった時点で、ご家族と 具体的な話し合いをするようになっており、看護師資 格を有する職員が、いざという時には、すぐに駆けつ け対応するようになっている。これまでの看取り支援 の経験から、事業所の浴室等を改修することを検討さ れていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の講習を受けたり、ミーティングで対応を話している。さらに、勉強会を重ね、実践力を身につけていきたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、4月と10月には消防に来ていただき、避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使用方法も学んでいる。また、近隣の方へは、日頃のお付き合いの中で、災害時に協力が得られるよう働きかけている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の指導で避難訓練や消火訓練をされている。近くに住まわれている職員の家が避難時の受け入れ場所となっており、夜間でも近くに住まわれている管理者や職員が駆けつけるようになってきている。テレビや食器棚は倒れないように固定されてあった。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩である利用者様へは常に敬意を払い、さりげない介助を行うよう気をつけている。馴染みの関係や、言葉遣いの難しさもあり、尊厳を大切にしたい声掛けについてはミーティングで再確認するよう話している。また、利用者様の個人情報、外部に漏らさないよう責任ある取扱いを常に話している。	
			(外部評価) 職員も利用者も地元の方のために、地域内には顔見知りが多く、職員は、利用者の個人情報を決して他言しないように指導されている。皆が集まる場所に面した居室には、ブラインドをかけて、中が見えないようにされている。トイレ誘導の声かけには、プライドを傷つけないよう「混まない内に行きますか」等と配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様に合わせた声掛けを行い、意思表示が困難な方には、表情や行動を見て自己決定できるよう促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく利用者様の希望にそい、自由に生活していただいている。しかし、職員の勤務の都合にあわせる場面もある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみが整えられるよう日々支援している。好きな色の洋服やデザインを聞き、一緒に衣料品を買い物に行く事もある。理美容に関しても、本人の希望にそい、おしゃれが楽しめるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様と一緒に育て、収穫した野菜や、地元のスーパーへ買い出しに行き選んだ食材を使い、調理の下ごしらえ等、利用者様個々の能力に応じたお手伝いをしていただきながら、バランスのとれた季節感ある家庭料理を作っている。 (外部評価) 畑の野菜を利用者と一緒に世話して、収穫を楽しまれ、新鮮な食材が食卓にのぼり、話題になっていた。食材の買い物も、利用者と一緒に行かれ、下ごしらえは、できる利用者が手伝っておられる。調査訪問時、松茸ごはんを食べながら、利用者が「朝、吐く息が白くなると松茸が採れるんよ」「松茸は、下から上へと探すんよ」と生き生きとした表情で話してくださいました。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気をつけ、1日の水分量が1200cc以上を目標に摂取していただいている。バランスの良い献立にし、利用者様の食べる量や、好み、嫌いな物についても把握するよう努めている。また、血液検査データなどからも、全身の栄養状態をチェックしている。認知症の重度化により、十分な食事量がとれない場合は、主治医と相談し経管栄養剤等も利用している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のうがいや歯磨き、就寝前の義歯のケアができるよう声掛けや、洗面所への誘導を行い口腔ケアに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄記録表を利用し、排泄パターンの把握に努め、トイレへの時間誘導を実施している。パットや紙パンツはこまめに交換し、不衛生にならないよう気をつけ、必要な方へは陰部の洗浄を適宜行っている。</p> <p>(外部評価) 排泄記録表でパターンの把握に努め、誘導等、トイレで排泄できるよう支援されている。昼間は布パンツで過ごし、夜間は紙パンツを使用されるような利用者もいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 水分摂取に気をつけ、野菜の多い献立となるようにしている。また、個々の利用者様に合わせ、便秘解消の食材や果物を提供する等、便秘改善に向け働きかけている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 一人で入れる方には好きに入浴していただいている。介助の必要な方は職員の都合に合わせる場面が多いが、湯加減や入浴の長さ等は、利用者様の好みに合わせ、会話したり、歌を歌う等楽しいバスタイムが過ごせるよう努めている。</p> <p>(外部評価) お風呂に入る際にご自分の下着を洗濯される方や、お風呂で歌を歌う方等もあり、それぞれの好みに合わせて、職員は見守っておられる。入浴を嫌がられる方もあり、きれいに髭剃りをした後ならお風呂に入ることもあり、声かけやタイミング等を工夫して入浴の支援をされている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 昼間は活動的に過ごしていただき、夜間良眠できるように支援している。利用者様個々の生活リズムに合わせて、昼寝の時間を設けたり、起床や、就寝の時間も利用者様にまかせている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬がないよう、職員間で必ず確認し合うようにしている。お薬手帳や説明書は、いつでも確認できるようにしており、薬の把握に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様個々にあったお手伝いや、出来る事を見つけ、日々していただいている。趣味や好きだった事をもとに、ホーム内での気分転換や、楽しみ事をおこなえるよう努めている。ホーム内でのレクリエーションをもう少し充実させたい。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に散歩や買い物等の外出は行っている。個別の外出(自宅へ帰る、夫の見舞い、知人宅を訪問等)もなるべく希望に沿うよう努めている。職員の手配の都合や、自動車事故の心配もあり遠方への外出は十分にできていない。	
			(外部評価) 「あまり出かけたくない」と言われた時には、無理強いないが、職員は、散歩や買い物に「行きませんか」と毎日声かけをされている。皆でお花見に行かれたり、たまにはご自宅に戻ったり、ご家族のお見舞いに行かれる際にも職員が同行されている。又、お部屋の仏壇に供える榊やしきびを、ご自宅の敷地に取りに行かれることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様個々の能力に応じて、支援している。お金を自分で管理している方も居られる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来る方は、自由に電話をしていただいている。出来ない方もダイアルプッシュをし、会話を楽しんでいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>和風住宅を改築しており、とても家庭的な雰囲気がある。玄関には常に花や、季節感のある飾り付けを行うようにしている。また、光や音、室温には気を配り、不快な空間とならないよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民家改修型の事業所で、入口には格子戸や庭園には築山、家の中には大きな梁に欄間があり、利用者のご自宅に近い環境でもある。玄関には砥部焼きの看板や人形が飾られ、食卓にはコスモスやススキが飾られていた。食堂の横に集える空間が増築され、利用者がテレビを見たり、おしゃべりしたり、ソファでくつろいでおられる様子が見られた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の居室、リビング等で自由に過ごしていただいている。親しい利用者同士がお部屋で一緒に過ごされることもある。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>自宅から使い慣れた物や、馴染みの品を持参するよう家族へ声掛け、過ごしやすいお部屋となるよう努めている。持ち込みの少ない方は、買い物に行った際、小物等購入し居室を好みの物で飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の間取りもそれぞれに違いがあり、タンスやいすや机、テレビや植木鉢、お位牌等を持ち込まれている。又、ご家族の写真やお好きな美空ひばりのカレンダー、俳句の切り抜き等も飾られていた。書くことの好きな方は、机の引き出しに「ノート」と大きく書かれてあり、ご自分のノートをしまっておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>バリアフリーのつくりではないが、手摺りを配置し、利用者様個々に、室内杖を使用していただいたり、手引きで移動していただく等、安全に過ごせるよう努めている。また場所に対する混乱が無いよう、トイレの表示、自室の名札等つけわかりやすく工夫している。</p>	